

## 平成 29 年度 教育課程専門委員会県外視察研修会 報告書

視察校：学校法人広陵学園 広陵高等学校

〒731-3164 広島市安佐南区伴東町三丁目 14 番 1 号

TEL (082) 848-1321

視察日：平成 29 年 9 月 7 日 (木)



### 1) 学校概要

設置者	学校法人 広陵学園	校訓	「質実剛健」
創始者	鶴 虎太郎	建学の精神	「教育は愛なり」
課程	全日制課程	設置学科	普通科
クラス数	35 クラス (1 学年 10~13 クラス)		
生徒数	1346 名 (男子 831 名 女子 515 名)		
教職員数	112 名 (内教員 98 名)		



### 2) 生徒募集概要・入試システム

募集定員 400 名 普通科Ⅰ類 80 名 (男女共学)・普通科Ⅱ類 320 名 (男女共学)

### 3) 広陵のミッション・ビジョン

#### ○広陵高校が果たすべき使命 (ミッション)

「高い志を持ち、自らの夢や目標に向かってチャレンジする生徒を育て、地域社会・国際社会に貢献する有為な人物を育成する」

#### ○使命を追及し実現しようとする学校像 (ビジョン)

校訓：「質実剛健」かつ礼節を尽くす自立した生徒の育成をする

- ①授業が真剣勝負の学校
- ②明るい笑顔の挨拶が交わされる学校
- ③掃除の行き届いた美しい学校
- ④学校行事・部活動・ボランティア活動に励む活力ある学校

### 4) 広陵カリキュラムの特徴

#### ○平成 25 年度から、隔週 5 日制 (授業時間 2 時間増)

#### ○普通科Ⅰ類 (特別進学クラス)

- (1) 国公立大学受験に対応したカリキュラム、35 単位 (週 3 日 7 限授業)

#### ○普通科Ⅱ類 (文系・理系・総合コース)

- (1) 文系・理系コース

4 年制大学を目指す進学コース (各コース 1 クラス)

- (2) 総合コース

大学 (推薦)・専門学校・就職を目指すコース (選択科目でそれぞれの進路希望に対応)

○特殊な授業

- (1) 1年生全員に、週1時間のネイティブによる英会話授業の展開
- (2) 1年生の数学・英語の授業でeラーニング「すらら」を導入
- (3) 女子生徒対象の「徳育」、(4) 第2外国語(中国語)、(5) 選択科目(総合コース)

5) 学力向上への取り組み

○授業における取り組み

- (1) ICTの活用(全教室にプロジェクターを設置)
- (2) eラーニング「すらら」の導入(1年次)
- (3) 数学科・英語科における習熟度別授業



\*教室のプロジェクター

○補習における取り組み

- (1) 夏・冬・春の長期休暇中の補習
- (2) 3泊4日の学習合宿(2年次)
- (3) 定期試験前の補充補習や欠点保持者への追指導
- (4) 3年3学期の特別クラスの編成

○HRでの取り組み

- (1) 1~3分間スピーチ・英単語テスト
- (2) 生活学習記録の記入および面談
- (3) 置き勉チェック(家庭学習の習慣化・教室の美化)

6) 部活動の広陵

部活動加入率 58% 体育系部活動 17部 文科系部活動 14部  
硬式野球部を中心とした全国大会での活躍



\*インドアターフ  
(屋内練習場)

7) 国際交流の広陵(世界を広げる出発点)

平成27年度 地域や世界が見える学校へ「ユネスコスクール」登録

ESD(持続可能な開発のための教育)の取り組みを本格的に行い、生徒会が中心になって行っている地域との交流や海外支援などのボランティアもユネスコスクール活動の一環として実施しています。

○海外長期留学特進プログラム

ニュージーランド(クライストチャーチ)で過ごす1年間(1年生1月~)

単位振替で同級生と同時卒業、安心のサポート体制、留学生受け入れに富んだ現地の学校で生きた英語を学ぶ

○SEAプログラム(Study and Experience Abroad Program)

ニュージーランドでの短期留学(今年度より実施)、3週間のホームステイ、英語を学びながら観光もしっかりできる充実したプログラム

## 8) 生徒への指導

### ○生徒指導部・保健部

- (1) 遅刻に対する徹底指導 担任指導・保護者召喚・管理職指導  
怠惰な遅刻ゼロに！(1日平均約10名 ここ数年は減少傾向)
- (2) 校則違反に対する徹底指導 反省文指導・保護者召喚・管理職指導  
服装・頭髪違反への教員集団での統一した指導！
- (3) 自転車指導の徹底  
事故・違反防止 交通安全指導・保険の加入義務・登下校指導  
地域の行事や清掃活動
- (4) 生徒会によるボランティアへの参加
- (5) 校内美化の取り組み  
ゴミ分別収集の徹底 美化意識の向上(美化アンケート実施)



\*清潔・綺麗  
ウォシュレット、音姫  
エアコン完備

## 9) ICT 教育と広陵

### ○平成 25 年度 — 「ICT 改革元年」 —

- (1) ICT 機器環境整備(教職員用・生徒用)
- (2) 教員ペーパーレス会議(iPadmini 配布) ※「リコー・スマートプレゼンター」導入
- (3) 教務システム(出欠・成績・調査書・指導要録の一元化) ※「シームス」導入
- (4) eラーニング(学び直しからセンター試験対応まで、個別学習) ※「すらら」導入
- (5) 情報教室(Windows44台) IT ラウンジ(iMac46台)

### ○平成 26 年度

- (6) iPadmini485台導入(1学年分)

### ○平成 27 年度

- (7) 校内全教室 Wi-Fi アクセスポイント設置

### ○平成 28 年度

- (8) iL-Board(プロジェクター一体型) デモ機導入  
電子黒板 75 インチ次年度導入予定
- (9) iPad Air 210台導入



\*メディアセンター

### ○平成 29 年度

- (10) 教室へのプロジェクター設置 Penplus・Classroom ソフトの導入

## 10) 広陵の生徒募集

年3回のオープンスクール 第1回 5/27(土)、第2回 9/2(土) <部活動体験>  
第3回 10/28(土) <すらら ID・パスワード配布> (2000名の中学生在が参加)

\*10:20~12:20 入試相談コーナー12:20~13:00

内容 授業・施設・部活動見学等 (食堂利用可能)

○「すらら」の生徒募集活用

入学者を増やすためには？体験入学者数を増やすことが大事！

（オープンスクールに来てくれさえすれば、PRすることはたくさんある）

今後を見据え、目玉となるものを用意し、他校との差別化を図る

入試対策に使える中学生範囲を学べる「すらら」のIDを無料で提供

7年前より実施し参加者が600名増加

○「すらら」の生徒募集活用のメリット

学校の面倒見の良さをPRすることができる

継続的に学校情報を発信することができる

自宅で学習できるため、保護者も学習している様子を見るから

ログインのたびに学校HPにアクセスするから

11) 広陵の今後の課題

- (1) 進路指導・・・進学実績の向上 就職率100%の継続
- (2) 生徒指導・・・道德意識の育成 女子教育の実践
- (3) 部活動の奨励・・・部活動加入率の向上 全国大会出場部活動の増加
- (4) 国際理解教育・・・さらなる海外姉妹校との提携
- (5) 生徒の安全確保・・・危機管理意識の向上 通学路の安全を含めた事故防止
- (6) 施設設備の充実・・・校舎の建て替えを視野に入れた整備計画の策定

**視察を終えて**

訪問させていただいた際、田中清峰理事長が広陵高校の歴史や経営方針を熱く語って頂きました。また、國貞和彦校長、堀正和教頭をはじめ多くの先生方にとっても丁寧に対応いただき心より感謝申し上げます。学習環境や様々な施設等、生徒たちが困っていることに素早く対応する姿勢、建学の精神「教育は愛なり」を実行する先生方が一体となり取り組んでいる様子が伺えました。私学に長年在職していると、新たな取り組みに尻込みしてしまうこともあります。生徒と近未来の事を考え教職員が協力していく事の大切さを再確認させていただきました。ありがとうございました。

報告者：専門委員 知徳高等学校 菅谷 仁志

## 平成 29 年度教育課程専門委員会県外視察研修会報告書

報告者 聖隷クリストファー中・高等学校 池本裕之

- 1 視察校 修道学園 修道中学校・修道高等学校
- 2 訪問日 平成 29 年 9 月 8 日 (金)
- 3 沿革  
1725(享保 10)年 広島藩 5 代藩主浅野吉長が屋敷の一部に「講学所」を創始  
1878(明治 11)年 12 代藩主浅野長勲が「私立浅野学校」を設立  
1881(明治 14)年 学制改革：山田十竹を校長とし「修道学校」と改称  
1945(昭和 20)年 原爆により校舎の大部分が倒壊  
1947(昭和 22)年 学制改革により新制中学設置 (現修道中学校)  
1948(昭和 23)年 新制度による修道高等学校を設置  
1978(昭和 53)年 学園創始 253 年、私学 100 年「修道学園史」刊行  
2003(平成 15)年 平山郁夫作「希望の光・安芸の小富士」を同窓会寄贈  
2014(平成 26)年 「修道学問所之蔵」移築・復元工事完成  
2017(平成 29)年 プール完成
- 4 教育方針 知徳併進 (知育と徳育を重視し、その実践を教育方針と掲げる)  
[実線綱領] 尊親敬師・至誠勤勉・質実剛健
- 5 学校の概要 1 学年 8 クラス・全校約 1,750 名の男子校  
中学募集人数 276 名  
高校募集人数 300 名 (内進生含む)
- 6 進学実績  
国立難関 10 大学合格 毎年 50~60 名 [過去 5 年間 276 名]  
国公立大学医学部 毎年 20 名前後 [過去 5 年間 159 名]  
広島大学・国公立大学 毎年 150 名程度  
早稲田・慶応大学 毎年 50~60 名程度
- 7 主な特長
  - (1) 6 年間一貫教育
    - ・初級(1・2 年)：基礎作りの段階
    - ・中級(3・4 年)：夢探し・自分探しの段階
    - ・上級(5・6 年)：努力をして集大成をする段階
  - (2) 自立心の醸成
    - ・今なすべきことを自分で考え、実行する力を身につける
    - ・良き社会人となるトレーニング「責任ある自由」な校風
  - (3) 貫徹力の錬成
    - ・「最後までやり抜く力」を鍛える班活動や学校行事
  - (4) 難関大学合格を完遂する
    - ・学年に応じた多角的な進路学習
    - ・確実に習得するハイレベルな授業
    - ・一人ひとりにフィットする課外・補習学習

・意欲に応える個別指導・自主学習環境

## 8 教育課程及びクラス編成の工夫

- ・二期制
- ・学校行事等を外し、A曜日～F曜日を設定し順番に回すことで曜日の偏りをなくす。
- ・行事の入り方によって60分授業、55分授業、50分授業、40分授業を使い分ける。
- ・高2までに定期試験の到達度でクラスを編成。
- ・優秀な生徒ほど選択の幅を持たせない。

## 9 修道のめざす学力・学力校への取り組み

- (1) 年4回の定期テストでクリエイティブな記述設問を出題
- (2) 知識・技能を主体的に学べる授業展開（「思考・判断・表現」のプロセスの体得）
- (3) 全校的なプログラムによる「主体性・多様性・協働性」の育成
  - ①エンパワーメントプログラム（大学等の留学生を活用した外国語使用のプログラム）
  - ②フューチャーリーダープログラム（オーストラリアの大学で組まれた修道生専用プログラム）
- (4) 授業における生徒の「態度・姿勢・意欲等」を授業担当者が評価できるシステムの構築
- (5) 中1遅進者対象の山寺補習・高3対象の居残り学習・土曜学習会(学力向上のため学年で実施)

## 10 生徒募集の概要

- ・広島県では私学の試験日が統一されていない（4地区に分かれ、各地区で個別に協議して試験日を決定）
- ・広島市内の私学が競合しないように協議の上入試解禁日を決める。
- ・外部への働きかけは5～9月の土日に塾の要請を受けて学校説明をする程度。
- ・ホームページはお金をかけて高級感があるように作り込んでいる。
- ・WEB出願と郵送による出願を併用している。

## 11 その他

- (1) 修道の未来を創る：「修道の未来を校長と語る」と題し、その希望者の集い、広く実効性のあるアイデアを結集、実現性を精査し、部長会を経て予算化。
- (2) 教員への手当て：組織の硬直化を招く勤務評定から脱却し、役職手当を実施
- (3) 施設：ICT活用を前提とした教室、広くゆったりした廊下や保健室、広島一の蔵書を誇る図書室・閉架図書の実質、プロ仕様の全面人工芝運動場、オリンピック仕様の100Mトラック、1学年が入る規模のホール、立派なアリーナ、歴史や卒業生の厚みを感じさせる文化財

## 12 所感

多くの優れた卒業生を輩出している歴史ある学校で、その歴史の重みと卒業生の層の厚さは、自分たちとは全く別格の学校であることを感じさせる。歴史資料館で目にした原爆直後の、校舎が半分崩れ落ちた教室の中で机に向かう子供たちの写真は、また別の意味で修道の歴史と建学

の精神、そしてそれが現在へと脈々と受け継がれ、今なお優れた人材を多く輩出している伝統の重みを感じさせる。

生徒を中心に据え、時代に合わせてスピーディーに変革をする姿勢、生徒には最善のものを与えようとする教育、そこで働く人たちがより気概を持って働けるように整えられた環境など、田原校長先生を中心に普段なき取り組みをしているとの印象を強く感じた。学校の持つ経済力はとても真似できるものではないが、教育に向ける姿勢や取り組みについてはぜひ参考にしたいと感じた。